（第２号様式）
神奈川県教育委員会教育長殿

令和５年４月６日

県立新城高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 23 日実施）	総合評価（３月 29 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①「７つの力」を育むため、新学習指導要領に伴う教育課程を編成し、授業改善中心としたカリキュラムマネジメントにより運用する。 ②知的探究心や主体的に学ぶ学習方法の改善に努める。 ③生徒の思考力の向上を図り、判断する力を育むための組織的授業改善に全校で取り組む。	①新旧教育課程の並行実施を踏まえ、それぞれのねらいや仕組みの違いに留意しながら円滑な運用を目指す。 ②主体的・対話的で深い学びを通して、基礎学力だけでなく上級学校や社会に繋がる発展的学力を身につける学習活動を展開する。 ③指定校事業「学習評価に係る研究」に向けた体制を構築する。	①新教育課程の学習活動と評価についての周知を深め、教科毎に情報を共有しながら学習指導を進める。 ②指導と評価の一体化と「主体的・対話的で深い学び」の学習活動を有機的に展開し、授業改善につなげていく。 ③学習評価の研究を効果的に進めるための組織的な仕組みと取組みの基盤を作り、運用する。	①異なる教育課程の学びと評価について留意点を整理・周知し学習指導と評価の仕組みを運用することができたか。 ②指導と評価の一体化などの新視点による授業改善に向け、組織的な取組みができたか。 ③研究が校内において組織的になるよう全体への意識付けを行うとともに取り組みへの始動ができたか。	①新教育課程の目指す学びと評価に関する２回の研修を通して職員全体で情報の共有を図ることができた。 ②「主体的・対話的で深い学び」の実践を授業改善の大きな柱に据え、各教科での研究を踏まえて公開研究授業の実施及び研究協議に結びつけることができた。 ③学習評価研究推進委員会の設置や外部有識者との連携を基礎に組織的な研究を始動させることができた。	①新旧教育課程の並行実施下で新たな評価観点に基づく学習活動の広げ方を考える必要があると考える。 ②各教育課程の評価方法に留意した成績処理を周知・実施したが、処理の更なる省力化を検討したい。 ③学習評価研究において、主体的に学習に取り組む態度につながる学びの調整力の見取り方・あり方や、授業改善のための評価のあり方を検討する必要がある。	①先行する新教育課程の利点を生かしながら授業改善を通じて取組みがなされている。発達段階に応じて「主体的・対話的で深い学び」が実践されている。 ②③評価研究や評価の仕方について、数値ではかれない部分を的確かつエビデンスのある評価につなげていきたい。新城高校の特性を生かした学力構成とも客観性と的確性を両立させ、モチベーション、やる気を促す評価研究を期待する。 内面の変容を捉え振り返りや見取りの中で前向きになれる評価にしたい。	①新教育課程の目指す、学びと評価に関する研修並びに公開研究授業を実施し、新たな観点に対する評価の方法や意義について共有を図り、今後の研究課題を整理することができた。 ②「主体的・対話的で深い学び」の実践の蓄積、授業改善を通じて授業の深化、発展と高いレベルでの平準化に取り組むことができた。学習における目標設定や見通し、振り返りとそれによる次のステップへの学習意欲の継続発展にむけた研究の蓄積が今後期待される。 ③学習評価研究について、課題が整理され、研究の視点が明確になったが、今後、エビデンスのある研究成果を積み上げるために更に工夫が必要である。	①次年度の研究成果発表の機会に向けて、校内はもとより、地区への研究の課題の提示と研究成果の深化と普及に向けて研究体制を整える。 ②新教育課程実施２年目にあたり新教育課程の学習内容、教科目標、評価方法の研究、実践を積み上げ生徒の「主体的・対話的で深い学び」の効果を高めるための研鑽を進める。 ③学習評価研究において中長期的な視点と、生徒の学習意欲を向上させ、モチベーションを持続発展させるための仕組みの研究を行う。 ③エビデンスのある研究成果を期待されていることから、検証や外部人材の活用などにも取り組む。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①多様性と協調性を育み、コミュニケーション能力や協調性を高め主体的で協働的な取組みを目指し、学校行事や部活動の活性化を図る。 ②一人ひとりの生徒への極め細かな支援体制の確立と外部機関との連携を深める。	①多様性の認知と理解をさらに進め、共同社会構成のために必要なコミュニケーション能力や協調性を高める。 ①生徒主体の行事・部活動を支援するための教員体制を改善・構築し、情報発信ツールを積極的に活用する。 ②個々の生徒に対する支援体制の拡充に向けてｸﾞｰｸﾞﾙ･ｸﾗｽﾙｰﾑ等を利用した情報共有の機会を充実させ多様な支援の手立てを構築する。	①多様性の認知に関わる啓発研修会を生徒・職員向けに開催する。 ①生徒会執行部や各部活動に対して効率の良い活動の工夫ができるように働きかける。また顧問の相互連携・外部人材の活用を図る。 ①交通安全教育にも１年間を通して取組み生徒の意識向上を図る。 ②オンラインツールを積極的に利用し、生徒の情報共有の機会を充実させる。 ②個別支援の必要な生徒へ、チーム支援により、対応の充実を図る。	①多様性をテーマとした研修会・学習会を生徒・職員向けに各１回以上実施できたか。 ①生徒会役員の支援や必要に応じた部長会の開催ができたか。また映像配信等を利用した新たな行事について検討、実施できたか。 ①ＰＴＡ及び活動Ｇ・生徒Ｇとの連携により交通安全教育の充実を図れたか。 ②様々なツールを活用した情報共有システムを構築できたか。 ②生徒情報交換機会を充実し、ケース会議を必要に応じ開催したか。情報共有が速やかに行えたか。	①情報発信ツールなども活用し、生徒会執行部との連絡の機会を多く取り、行事を中心に生徒主体の活動を支援することができた。また部長会を開催し校内美化などについて呼びかけ、協力して行うことができた。 ①ｸﾞｰｸﾞﾙ･ｸﾗｽﾙｰﾑを活用し、生徒同士での連絡の機会を増やし、生徒会活動に生かすことができた。 ①幹事校として川崎地区交通安全高校生会議及び担当者会議を各２回実施し、11 月の交通安全大会の成功へと導いた。 ②職員会議毎に学年情報共有を行い、その機会を充実させた。ケース会議を６回行うことができた。	①人と接する機会が減る中で、映像配信や実施の工夫をすることで、可能な限り学校行事を通常に近い状態に戻し、その機会を減らさぬよう改善していきたい ①交通安全高校生大会から得られた成果を来年度以降の交通安全に関する意識向上に繋げることが望まれる。 ②生徒情報の共有が更に速やかに行われるよう、学年・養護教諭・SC・外部組織との相互の連携を充実させる。	①生徒の様々悩みや相談に対し丁寧な対応を行っている。更にヤングケアラーに対する対応等新たな課題にもＳＣやＳＳＷ等外部人材、機関との連携により支援体制を充実させたい。 ①新型コロナウイルス感染症のリスク軽減や規制緩和に合わせ細心の注意を払いながら学校行事や修学旅行を実施できたことは生徒の学校生活の充実につながった。 ①生徒と総会や生徒指導に関する講演等をオンライン・オンデマンドで実施でき、今後の活用が期待される。 ①川崎地区交通安全高校生大会を通じて、交通安全意識の向上を図れたことは評価できる。引き続き道路交通法の改正に伴う自転車のヘルメット着用義務化や保険への加入等についても理解・実施をお願いしたい。	①新型コロナウイルス感染症における制限を克服し、感染状況の改善や細心の感染症対策により従前の文化祭、体育祭、合唱コンクールや修学旅行等の学校行事の再開にこぎつけたほか、この間活用した IT 技術でオンライン、オンデマンドを効果的に活用できた。 ①ｸﾞｰｸﾞﾙ･ｸﾗｽﾙｰﾑや電子掲示板などの設定や活用を通じて教科のみならず生徒活動においても機能を生かすことができ、ICT スキルの向上を図ることができた。 ①川崎地区交通安全高校生大会を３年振りに参集型で開催し、生徒の交通安全意識の向上を図るとともに生徒の能動的な活動を実施、支援することができた。 ②教育相談コーディネーターの研修やケース会議の開催、課題のある生徒への対応などを丁寧に進めることができた。	①多様性の認知、尊重に向けた教職員と生徒、生徒同士のコミュニケーションの活性化を図るための機会を多く設定する。 ①生徒の主体的な取組を促し、様々な行事や生徒の活動が円滑かつ的確に行われるよう支援体制を整える。また、安全安心な部活動の実施のための支援・体制を整えるとともに、顧問やインストラクターの指導支援に係る体制の整備に努める。 ②生徒の課題や悩みや相談に対応する、早期に発見、対応するためにクラス、学年などきめ細かな相談体制や面談機会の設定と環境整備を進めるほか、SC、ＳＳＷ等外部人材の活用体制の整備を進める。 つ

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 29 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 23 日実施）	成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	①自立した市民として社会で活躍する力を育むための進路希望実現を体系的な指導と情報提供・支援により行う。 ②長期的な展望に基づくキャリアプランを主体的に考えることができる資質を育む。	①上級学校への進学、入試にとどまらず、高大接続や連携を活かし、大学での学修・研究についての理解を深める機会を増進する。 ②卒業後の進路とその先を見据えた進路選択等をテーマに長期的な視野を持った進路指導・研究を研究する。 ②上級学校、研究機関、将来の職業への理解・関心を高めて向上心を持った進路意識の醸成を図る。	①進路先、社会人としての展望を持つために、生涯キャリアを念頭に上級学校の見学会・説明を実施する。 ②ライフプランや長期的キャリアプランを想定した情報提供を様々な機会を通じて行う。 ②十分な情報提供や支援の元、早期の志望決定と進路実現に向けての学習・活動に取り組む。	①上級学校見学会・説明会等を５回以上実施でたか。 ①様々な進路指導情報の提供、進路研究機会の提供により早期の第１志望決定を促せたか。 ②授業を通じて情報提供や主体的に考える機会をさまざまな手法を効果的に取り入れて、生徒に提供できたか。	①1･2 年生においては、オープンキャンパス等への参加･報告書の提出を夏季休業中の課題としたほか、校内では、大学教職員等を招いての進路ガイダンスや大学模擬授業･校内進路説明会など合計６回以上の説明会等を実施。 ①２年生全員に第一志望届を提出させた。 ② ｸﾞｰｸﾞﾙ･ｸﾗｽﾙｰﾑと連繋した情報の提供や､OB 大学生の研究発表､有名予備校講師の講演など様々な視野の広がりを図った。	①目標は､概ね達成されているが、新型コロナウイルス感染症後の状況を見据えた適切な対応が必要である。 ②さらなる向上心の醸成のため、不断の取組､工夫が必要である。	①校内の説明会やガイダンス、模擬授業など多彩なプログラムをオンラインやオンデマンドなどを活用して行う等、新型コロナウイルス感染症対応下でも効果的な実施を行えた。 ②実績の向上が見られたことは、感染症対応などが厳しい状況の中、教職員の工夫と努力によるところが大きい。引き続き指導・支援をお願いしたい。 ②短期トレンドとしての進路先の指導・選択と併せて文理融合人材が大学で求め始められており、中長期的なトレンドも捉えながら指導・支援を進めたい。	①進路選択のためのガイダンスやキャリア形成に関する説明会等は、オンライン、オンデマンド技術なども活用しながら多様な人材により実施でき、生徒の高い関心を得ることができた。実際の進路選択に向けて、学習意欲の向上と相乗効果を得られるよう、教務と進路の連携にも今後力を入れていきたい。 ②３年０学期など早期の進路決定や意識高揚を行うことができ、進路実績も厳しい環境下で順調に伸展させることができた。得手不得手の教科による進路選択ではなく、実現したい進路に向けて努力できるよう、支援・指導体制の改善が必要である。	①多様な進路に応えるため、総合・ガイダンス的な情報提供の時期を早め集約的に行う一方、具体的な進路選択にあたりきめ細かな情報提供、講演、資料提示が行えるよう体制を整えるほか、担任、進路担当者の支援スキルの向上を図る。 ②文系・理系といった観点だけでなく文理融合系など多様な進路に対応できる進路支援体制の構築と長期的なキャリアプランの検討を促すプログラムの開発を進める。 ②キャリア相談・支援制度についての研究を進め、支援スタッフの養成・確保に努める。
４	地域等との協働	地域等との連携や協働を進め、持続的な発展を可能とする社会で一定の役割を果たす。また、地域交流、ボランティア等を通じた社会貢献により、開かれた学校づくりに取り組む。	①学校におけるIT 環境の整備に伴い、新しい地域との連携の方法を模索する。 ②学校内への来校がままならない中、学校のホームページを活用して、地域や入学希望者に対して学校の魅力を発信する。	①IT を利用した連携方法について、地域との協議を行う。 ②学校ホームページを通じて、外部の方が学校に対しての情報を得られるよう効果的な情報発信を行う。	①IT を利用した連携方法について、地域との協議を行うことができたか。 ②学校ホームページにおいて、学校の様子が理解できるような情報発信を毎月行えたか。 ③学校ホームページにおいて、20 回以上の更新が行えたか。	①IT を利用した地域との連携については、進展していない。 学校ホームページについては、平均して月３回程度は学校の様子を配信した。	①相手のあることなので、無理のない範囲で、連携を模索していきたい。 ②ホームページについては引き続き、生徒たちの活動の様子を外部に発信していきたい。	①新型コロナウイルス感染症対応で、人的な地域交流、学校間連携、ボランティア活動等が停滞していることは残念で、今後、学校間連携や地域活動への参加等、感染症対策の充実や緩和に応じて以前にも増した活動を期待したい。 ②学校ホームページの更新率は高いが生徒の活動や実態がもう少しわかるよう工夫いただきたい。	①地域との協働や連携については、新型コロナウイルス感染症の影響で人との交流、接触が制限され、少人数での活動以外対応することができなかった。今後、感染状況の改善や規制の緩和に伴い、安全面に配慮しつつできることから地域連携活動を再構築したい。 ②学校ホへームページの更新は予定以上の頻度で行うことができた。今後は内容の充実を一層図りたい。	①感染状況等を見ながら、近隣小中高や子ども園との交流や連携から始め、地域連携活動を多くの生徒が体験、取り組めるよう支援する仕組みをつくり実績を積み上げていく。 ②ホームページなどの提示型の情報発信に加え、オンデマンドでの情報提供、オンラインのイベントなどの可能性を探り、学校説明会、生徒会行事での活用を図る。
５	学校管理 学校運営	生徒の安心・安全な学校生活の場としての学校の管理運営を推進するとともに、職員による業務改善、意識向上により事故・不祥事防止を図り、効率的な学校運営を行う。	①生徒の活動を最大限支援するために健康・衛生・精神・設備を充実させ安心・安全な学校運営を進める。 ①DIG 研修と年２回行う避難訓練を通じて命を守る教育の推進と生徒の防災・減災への意識を醸成する。 ②教職員間の意識の向上を図り、常に事故不祥事防止の意識向上に努める。	①コロナ対策の一層の充実と学びを止めない低減させない環境整備を行う。 ①夏、冬２回実施する避難訓練及び DIG を通じて生徒自らの命と他の人の命を守る教育を推進し生徒の防災・減災への意識を醸成する。 ②事故・不祥事防止の取組みを組織的に行う。	①健康管理、衛生保持のための環境整備を進め予防効果を高めることができたか。 ②防災委員による生徒主体の避難訓練を実施し、生徒へ防災教育を行うことにより自助・共助の意識の向上図れたか。 ②年 12 回以上の事故不祥事防止会議・研修機会を設定し、業務改善を図れたか。	①基本的な感染症対策の徹底、各教室に加湿器の設置並びに管理を生徒中心に行った。 ②２回（地震、火災）の避難訓練、DIG 研修、並びに防災教育を実施することにより防災・減災の意識が向上した。 ②事故防止会議だけでなく普段からの注意喚起や組織的な対応を行えた。	①消毒、換気などの基本的な感染症対策の更なる徹底が望まれる。 ②工夫した避難訓練、防災教育の中身の充実等を行い更なる防災・減災の意識の向上が望まれる。 ②事故不祥事防止会議を 13 回開催し事故防止、業務改善を図ることができた。	①十分な感染症対策と時宜に応じた緩和や機器の整備により教育環境を整えることができた。 ②防災教育の中で DIG 等の具体的な実践を伴う活動は大いに評価したい。発災時だけでなく、消火訓練、応急処置、帰宅困難時の対応等、事前事後の想定や訓練も充実させたい。 ②日頃からの事故防止のための研修、啓発機会の設定により信頼される学校となるよう引き続き取組をお願いしたい。	①基本的な感染対策の徹底と消毒機器、サーキュレーター、加湿器などの整備により衛生環境を整えることで、安心安全な教育現場を整えることができた。 ②災害を想定した訓練やＤＩＧ研修の実施など具体的な防災教育・訓練を実施し、生徒・教職員の意識を高めることができた。 ②事故不祥事防止の会議・研修機会を多く設定し、常時意識喚起を図るとともに実際の事故・不祥事防止を図ることができた。	①新型コロナウイルス感染症の感染状況や規制緩和の状況に合わせて、安心安全な学校、教育現場を確保しながら、最大の教育効果を高めるため、学校行事をはじめ実践的な教育活動に取り組んでいく。 ②震災、水害、火災などあらゆる災害に備え、能動的に行動できるよう防災意識の向上と実践的な訓練・研修を引き続き行う。 ②事故・不祥事防止会議の定期的な開催と集約的な研修機会の設定により引き続き事故・不祥事防止に取り組む。